和歌山
地域面3ページ

和歌山支局
〒640-8154 和歌山市六番丁5
和歌山第一生命ビル4階
TEL073(431)1411
FAX073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】
橋本 0736(32)0063 新宮 0735(28)1751
海南 073(482)0675 御坊 0738(22)2511
湯浅 0737(62)2870 田辺 0739(26)1026
【広告問い合わせ】 073(423)9291
【購読問い合わせ】 0120-468012

マーク・矢崎 26

熊野古道 みちくさ記 27

波太神社の秋祭り（阪南市）

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

波太神社（阪南市石田）にて

勇壮、豪快「やぐら」宮入り

大阪府南部・泉州の紀伊参詣道や浜街道周辺の10月は、秋祭りでの「やぐら」の宮入りが豪快と聞き、10月11日、最寄りの南海鳥取ノ荘駅へ向かう。正午過ぎに神社前に着くと、広場では3地区・下出、石田宮本、黒田の順でやぐらの引き回しが始まっていた。男女の若衆がロープで引き回し、カーブを曲がり終えるとやぐらを上下に揺らし、祭りを盛り上げていた。奥まった拝殿近くの参道で宮入りを待っていると、黒田地区のご婦人が話しかけて下さった。

「今日は息子がやぐらに乗るので、応援に昼前から来ているんですよ。結婚して家を出たけど、昨日から家族連れて帰っているの」と表情を崩す。

「やぐらに乗るには、事前に申し込むのですか」

「子どものときからやぐら行列の役割が決まっていて、年々役割は変わるんです。成人すると責任があるので欠席できず、自ずと団結心が出てくるわね」

周りの露店には、初々しい法被姿の少年少女が群がり、おしゃべりに興じる。

午後3時になると下出組のやぐらの太鼓が近づき、石橋を渡って一旦止まり、助走をつけて本殿の広場に向かって一気に石段を駆け上がった。観衆の拍手に迎えられて本殿前で気勢をあげる。後の組も続き、3組がそろうと順次、若衆2人が屋根に上り、組の団長旗を広げてお披露目をした。歓声と共に紙吹雪が舞う。次に袋入りの紅白餅が観衆に投げ込まれ、あちこちから手が伸びた。私の足元にも袋が届き「幸せ、縁起」に与った。

しばらくすると地元に戻る準備に入る。この行程が阪南市20地区に割り当てられ、一日中続く。見事な団結ぶりをみると、町おこしには「祭り」を核にするのが一番だと思った。

この祭の盛り上がりの背景には、10月4日の「やぐらパレード」の助走がある。パレード前の午後3時半を目安に、各地区から市役所前広場へ「やぐら」が集まる。人間の背丈以上の木製の大二輪の駒に乗せた「やぐら」は、地区それぞれの特徴ある精密な彫刻で品格を整え、前列に若衆、後列に可愛い法被姿の子どもとその親を従えて入場する。

広場では、梶台に乗った若衆の音頭と太鼓で、やぐらを上下に振って気勢を上げ、出会いを歓び合っていた。今回は休みが1組あり、19組のやぐらが集まった午後4時、市中パレードが行われた。市役所ビルの屋上から見た俯瞰図は、波打つやぐらと人の波で、まるで荒波の大海に浮かぶ船団のようだ。パレードの道路脇は暖かく見守る群衆で埋まり、町全体で自分たちの祭りを楽しんでいる。見ていて快い。一時的に店を閉じて若衆に変身した姿は、町の団結に一役買っていると思った。

こんなにぎわいの陰で鳥取ノ荘駅の反対側には、大阪夏の陣の悲恋物語が「てまり唄」として歌われているお菊さんの「法福寺」があった。境内の碑文の説明にお菊の無念さがしのばれた。どの町にもさまざまな歴史があり、地域それぞれの人の思いが祭りを生み出していることに気づかされた。

山車揃い稲穂のごとく波を打つ　秦華

（次回は12月10日掲載予定）